さて、皆様、本年もこのコーナーを宜しくお願い致します☆２０１２年一発目は、事例をもとに「こんなときはどうすればいいの？」と、とても具体的で解りやすい内容です。他にも「いつでも良いよ～」とか「目を見て話しなさい」とか難しいですよねぇ。
あ、そうそうこの号が皆さんの手に届く頃（２１日の土曜日）は香川大学付属特別支援学校で教育研究発表会が行われています。サンフェイスからも各部門のスタッフが参加してますよぉ～☆僕は付き添い。またひとつ子どもたちにとって良い環境作りが進みそうですね。　　久田

第 41 回『わかるように伝えていますか』

香川大学　坂井　聡

☆こんなときどうすればいいのだろうか

これまで、発達障がいのあるひととのコミュニケーションについて考えてきました。ここからは少しエピソードを紹介して、その対応策の例を考えてみましょう。
うまく対応できるでしょうか。

エピソード「正直に言いなさい。うそはいけません」
　発達障がいのあるサトシ君は、小学校の 5 年生になります。成績はよく、先生の言うこともよく聞きます。成績はいいのですが、友達との関係はあまりうまくいきません。そんなタイプの小学生です。
サトシ君は、小学校の低学年の時、学級会の時に、学校の担任の先生から「うそは泥棒の始まりです、うそをつくのは良くないことです。正直に言うのがいいのです。」と教えられたことがあります。そして、その後、うそをついて先生方を困らせたということで、同じクラスの同級生が、先生にきつくしかれている様子を見たこともあります。
サトシ君は「うそをつくのはいけないことで、うそをついたらとてもひどくしかられるんだ。だからうそはついてはいけない」ということを学んだのです。しかし、そのときからサトシ君の悩みは始まったということもできまるのです。
算数のテストを返してもらった時のことです。サトシ君はもちろん 100 点、隣の席のユキちゃんは 58 点でした。サトシ君はユキちゃんの点数を見て「ユキちゃんはどうして 58 点なの、これって学校で習ったところばかりなのに、どうしてわからなかったの」と言ってしまったのです。そのように指摘され、みんなの前で点数を言われたユキちゃんは泣いてしまいました。周囲のクラスメートは、「サトシ君、ひどい」と声をあげます。そして、サトシ君は先生に職員室に来るように言われました。「サトシ君、どうしてユキさんにあんなことを言ったのですか？ユキさんも一生懸命に勉強しています。余計なことは言わないようにしなさい。」と注意されたのです。サトシ君は何を叱られたのかわかりません。おまけに「あんなこととは何のこと？」「余計なこととはどのこと？」と考えるのですがわかりません。わかっているのは、うそを言ったら叱られるから、正直に言ったのに叱られてしまったということだけです。「うそはいけないことだ」と教育されたので、正直に言ったのです。しかし、このような結果になってしまったのです。

このような場合、どのように指導すればいいのでしょうか。人のテストの点数やその人の個人情報に関することは、知っていても言わないということを教えておくことです。どのようなことが個人情報になるのか具体的に伝えることが大切です。体型や髪型などについても、個人情報の一つであるというように伝える必要もあるかもしれません。指摘されることで、傷つく子どももいると考えられます。思っていることを正直に言ったことが、人間関係を崩すことになるということです。サトシ君の場合は、個人情報にはどのようなものがあるのかを具体的に教えてもらってからは、それ以後こういったトラブルは少なくなりました。

坂井聡先生の紹介
（プロフィール）
香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、 香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、 現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞
（著書）
暮らしの中のコミュニケーション（やまびこの里）クラスルームコミュニケーション（こころリース出版会）自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア（エンパワメント研究所）など